

## 基盤共同研究 渋沢敬三に関する総合的研究

〔期間〕2022年～

〔所員〕丸山泰明 後田多敦 泉水英計 山本志乃

〔客員研究員〕川島秀一

### 書物から渋沢敬三を読む

丸山 泰明

渋沢敬三（1896～1963年）は非常に多彩な活動をした多面的な人物であり、わかっているようでよくわかっていない人物である。学者と財界人の二つの面に分ける理解がしばしばなされるが、一人の人間の単純化であり、両面におさまりきれない部分には目が届かないことになる。渋沢敬三とは何者なのかを考えるためには、渋沢自身の言葉を借りるならば、「分化しない万屋を分化した学問で異なる観点からいろいろと研究するほかに、分化しないままの万屋そのものを、即ち分化前の状態そのものを対象として研究する学問なり方法なり」（『渋沢敬三著作集 第3巻』平凡社、1992年、19ページ）が必要である。

このような問題意識から2022年度から新たに立ち上がった共同研究では、まずは3か年の計画で書物をテーマにして研究を行うことにした。渋沢敬三と書物の関わりあいは、大きくは①著者・編集者、②出版者・出版の支援者、③収集家・蔵書家に分類することができる。このような全体的な見取り図のもと、2022年度は大きく分けて二つの方面から調査を行い、その成果を研究会で報告し検討した。一つは、祭魚洞文庫の実態についての調査である。渋沢が三田綱町の渋沢邸内に1934年に設けた祭魚洞文庫の書物は、さまざまな経緯により今日各研究機関に分散している。その中でも代表的な機関として、8月には流通経済大学の祭魚洞文庫の調査、3月には国文学研究資料館の祭魚洞文庫旧蔵水産史料の調査を行った。国文学研究資料館では、渋沢とゆかりの深い日本実業史博物館準備室旧蔵資料の閲覧もさせていただいた。調査に関して便宜を図っていただいた流通経済大学および国文学研究資料館の関係者の皆様にはこの場を借りて深くお礼申し上げたい。これらの調査では、書物の種類や内容とともに、蔵書表や帙、封筒などの整理・保管の形態にも目を向けている。言い換えると、書物を単なるテキストの情報としてだけでなく、ものとしての形態に着目し、どのように生まれ、読まれ、保管されてきたのかから渋沢敬三と書物の関わりを明らかにすることを試みたのである。

もう一つは、神奈川大学日本常民文化研究所が所蔵する書物である林勘次郎の『瓦片録』から問う調査である。『瓦片録』は、島根県浜田の漁業を詳細に調べまとめた自筆本であり、1942年と1962年に渋沢に寄贈された2冊がある。渋沢は「農民、或は漁民、こういう本を書いたことのない人々の本を出版してみたい…事実即した人間の汗の記録といったような意味で…大きな経験的記録というようなものがあって然るべきではないか」と語っている（『所感——昭和十六年十一月二日社会経済史学会第十一次大会にて』『渋沢敬三著作集 第1巻』平凡社、1992年、606ページ）。『瓦片録』はまさに「事実即した人間の汗の記録」として言うべき本である。しかしながら林勘次郎が



写真1 国文学研究資料館における祭魚洞文庫旧蔵水産史料の調査

いかなる人物なのか、また『瓦片録』はどのように書かれたのかは不明であった。そこで、山本志乃と川島秀一は、島根大学附属図書館、浜田市立中央図書館、国文学研究資料館が所蔵する『瓦片録』の異本を調査するとともに、島根県浜田市を中心に林勘次郎の足跡を追う調査を行った。本調査は、1冊の本という点、そして林勘次郎と渋沢敬三を結ぶ線から、近代の学問と書物の関わりという広い世界を見通そうとする調査である。

渋沢が主宰したアチック・ミュージアムの歴史については、その名の通りこれまで「博物館」のイメージが強く打ち出されてきた。ただ実際には「図書館」「文書館」「出版社」でもあった。祭魚洞文庫は、東洋文庫（1924年、三菱・岩崎家、東洋学）や斯道文庫（1938年、麻生家、日本・東洋の精神文化研究）などの財閥系の文庫の系譜に位置づけることができる。また、柳田國男が東京の成城に建てた自邸に設けた喜談書屋とも通じ、民間の研究の場としてライブラリーとしても歴史的特色を持っている。さらには、渋沢の書物の重視は、第一銀行の取締役としてファイリングや帳簿の保管・整理を重視していたことにもつながるであろう。

本共同研究は、まだ開始1年目だが、あらたな発見や課題が生まれている。さらに研究を進め、その成果を書物として刊行することを計画している。

## ■ 2022年度の活動

- 第1回研究会「ハーモニアス・デヴェロップメントの仕掛けとしての文庫と出版」丸山泰明 『『文字を持つ伝承者』たち——田中梅治と林勘次郎』山本志乃 2022年6月26日 みなとみらいキャンパス 15032 講堂（オンライン併用）
- 祭魚洞文庫資料調査 2022年8月4日～5日 流通経済大学図書館 丸山泰明・関口博巨・泉水英計・高城玲・山本志乃・川島秀一、太田原潤（院生）
- 『瓦片録』の閲覧・撮影 2022年8月22日～28日 島根大学附属図書館、浜田市立中央図書館、浜田市浜田郷土資料館 山本志乃・川島秀一
- 第2回研究会「旅から書物へ」丸山泰明、「林勘次郎と『瓦片録』——島根県の現地調査から」山本志乃・川島秀一 2022年12月11日 みなとみらいキャンパス 15032 教室（オンライン併用）
- 漁撈関係資料調査 2022年12月12日 国立国会図書館 川島秀一
- 祭魚洞文庫資料調査 2023年3月6日・7日 国文学研究資料館、日本常民文化研究所 丸山泰明・関口博巨・泉水英計・山本志乃・川島秀一・窪田涼子